eggs are in water. Three pairs apparently bred within 300 square meters. The last egg of five in a clutch was laid on 18 August. Coloring on the side touching water is milky white without marking.

タマシギは印度及びセイロンに普通の鳥であるが、文獻によると卵が半ば水にひたるような巢を作る事はない。多く水田の附近等に作られ稀には8時から10吋高く巢を積み上げることもあるそうである。時としては水邊をはなれて乾燥した地上に営巢をする事もあるタマシギは一妻多夫の習慣があるらしいが、未だ研究が完全にされていない。けれども色の美しい雌が大聲で鳴き、色の美しくない雄が巢につくことはたしかである。そしてヒナの時代には一見雄の色彩を呈するから、繁殖のすんだ時雄ばかりと思われる1, 2家族の群が飛んでいるのを見られた事もある。

タマシギの雌は繁殖期には、雌同志の争闘をなし、果して多くの雄を占有するものであろうか、將來小林君の研究に俟つ所が多い。

卵の色彩は文獻によると、印度産のものと同様である。（蜂須賀附記）

ア ッ ツ 島 の 雷 鳥

The Ptarmigan of Attu Island.

熊 谷 三 郎 Saburo Kumagai

昭和18年(1943)5月28日、歴史的な日本軍の玉碎が傳へられた後、同年11月6日から幾日か、日本橋の三越でアツツ島の植物と鳥とが展覽された事があつた。植物はシロイヌナヅナ、ホクヨウタチフヂ、タイリンヤツハコベ、ホクヨウタンポポ、エゾコザクラ、シロバナヤチチドリ、チャボシコタンサウ、セイクワサウ、アヲノツガザクラ、アリウトエンカツサウ、エゾツツジ、ガンコウラン、ホクヨウクスゲ、ヒノヤメギランの14種であり、鳥はエトピリカ、アビ、そしてエゾライテウと記された標本とであつた。ライテウに關してはそれはエゾライテウでない事は確かであつて、チシマライテウに近い亞種の *Lagopus mutus evermanni* Elliot でなければならない。

アツツ島のライテウの標本がその後何處にあるのか無いかわからないが、もしあつた時には以上の様に訂正され度い。

アリウシャン群島からは6亞種のライテウが知られてゐる。此の地は面積が狭く略々同一の氣候であるにかゝらず、これ程地方的に分割された鳥類はこの郡島中他に例がないと思われる。

Résumé

Specimens of a grouse brought back from Attu Island and exhibited in Mitsukoshi department store in Tokyo during the war were labelled as "Hazel grouse", but it is obviously a mistake and must be known as *Lagopus mutus evermanni*, a local race of a ptarmigan.

標本を大事にしよう

上野動物園に會て瀟洒な小禽室が出来て同好の士を娛ませたものである。其の後どうした譯か知らぬがすっかり荒廢して、今では薄暗い物置のやうになり大小の剝製標本數十點が置かれてあるが、臨時標本室になつてゐることを知らずに通り過ぎる見物人が多數であらうと想ふ。之等の標本の中にはカンムリサギモドキ(カグー)、コモドオウトカゲなど日本で唯一品といふ貴重な物もあるのに、このやうな陰氣で而も雨天の際には容赦なく雨洩りがして来るやうな場所に放置し段々壞滅に瀕して来るのを、安閑として見逃してよいものであらうか。動物園側では修理したくとも費用が捻出出来ないのでも此のやうに打棄てゝあるに違ひない。文化財保護の意味から「標本をもつと大事にしよう」一大運動を起し上野動物園内に立派な標本館を建設したいものである。動物園は活きた動物を觀せればよいとは云へぬであらう。飼養動物品目のひどく少くなつてゐる今の日本の動物園では剝製標本の價值は倍加される。剝製なら博物館に行けといふ議論もあらうが同じ動物園で剝製其の他の標本も見られるなら更に便利である。

それから井之頭自然文化園内の資料館には硝子のケースに入れないうで丸出しの儘の剝製が幾點もあるが、心なき小學生などがさういふ剝製を面白半分に盛になで廻す。盲人ならば兎も角、二つの眼明かな人が次々と此のやうに愛撫するとどんな剝製でも次第に毛がすり切れて觀るに耐へなくなるのは必定である。手に觸れてならぬと物凄く大きな掲示でも出すべきだ。カモシカやオウツル、戦後の日本では貴重になつたタンチョウの剝製などに子供が手を觸れるのを見るとヒヤヒヤする。此處のオグロヅルは之又非常な珍品であるが硝子のケースに収まつてゐるので僅かに氣の安きを覺える。(高島)